

資 料

1. 相談支援専門員に対する実地教育に従事する者のコンピテンシーの検証 調査票（1回目）
2. 相談支援専門員に対する実地教育に従事する者のコンピテンシーの検証 調査票（2回目）

令和2年度厚生労働科学研究費補助金「相談支援専門員に対する実地教育の実施方法及び
実地教育に従事する指導者養成カリキュラム開発についての調査研究」
相談支援専門員に対する実地教育のコンピテンシーの検証に関する調査 調査票

【ご記入にあたって】

- ・ 本研究の目的は、相談支援専門員に対する実地教育の専門的力量を明らかにし、またその結果を検証することです。本研究での**実地教育とは実践知を養い熟達化するための実務・実践場面での取り組みであり、具体的には業務実施地域で行われるスーパービジョンや業務内で行われる研修も含まれます。**
- ・ 本研究の成果により、相談支援専門員の実地教育の実施方法の開発し、相談支援専門員の実地教育の在り方への提言を行います。
- ・ 研究への参加は自由です。参加しない場合でも不利益を受けることはありません。
- ・ 希望によっては、研究実施計画等を閲覧することができます。ご希望の方は下記の問い合わせ先にご連絡ください。
- ・ 本研究で知り得た個人情報については、取り扱いには十分配慮いたします。
- ・ 本研究で知りえた情報等は、本研究のために使用されます。データはパスワード付きの外付けハードディスクに**2026年3月31日**まで保管し、保管期間を過ぎた場合はデータ消去ソフトを使用して、破棄します。
- ・ 福井県立大学人権擁護・倫理委員会で審査した上で、本研究の結果を厚生労働省等他機関に提出することがあります。
- ・ 本研究結果を学会や学術雑誌に公表を予定しています。いただいた回答内容は、統計的な処理を行った上で公表します。統計処理に当たって、回答者の氏名、機関名、地域名といった個人が特定されることはありません。自由記述欄に固有名詞があり、それを掲載する場合は匿名化します。
- ・ 本調査票のご回答をもって、本研究への参加に同意いただいたと判断いたします。
- ・ **2月22日（月）**までにご回答ください。ご回答にあたっては送付されたメールアドレスにご返信ください。
- ・ 本調査の回答者は相談支援専門員の方を想定しています。**事業所単位ではなく、貴事業所に配置されている全相談支援専門員が対象です。相談支援専門員お1人おひとりにご回答いただければと存じます。勤務形態は特に問いません**（常勤、非常勤、専任、兼任の別ではなく、全員を対象にしています）。
- ・ 何かご不明な点がありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

〈調査実施者〉

和泉短期大学 鈴木敏彦 / 福井県立大学 相馬大祐

〈本調査の問い合わせ先〉

福井県立大学 相馬大祐 〒910-1195 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1
FAX : 0776-61-6016 E-mail : soma@fpu.ac.jp

1. 以下の項目について、現時点のあなたに該当する箇所に○を選択してください。該当しない場合は何も選択しないでください。

【記入例】人権意識等について、理解できている、他者に説明できている場合。

	理解できている	他者に説明できる	実践できる
相談支援に必要な価値			
人権意識・当事者尊重・意思決定支援について	○	○	

	理解できている	他者に説明できる	実践できる
相談支援に必要な価値			
人権意識・当事者尊重・意思決定支援について			
相談支援に必要な知識・技術			
障害福祉に関する制度について			
権利擁護・虐待防止に関する制度について			
障害特性（身体・知的・精神・発達・難病）について			
障害児支援について			
医療的ケアを必要とする児者について			
地域移行者について			
高齢障害者支援について			
個別ケースに対する相談支援のスキル			
記録の技術について			
安心感の提供について			
受容			
傾聴			
面接設定			
インタビュー・アセスメント			
情報収集力			
ケースを通じての情報整理力			
見立ての力			
要約力			
説明力			
客観性の担保			
2次アセスメントの活用			
サービス担当者会議を適切に開催・運営			
会議招集			
情報共有力			
スムーズな会議進行			
サービス等利用計画			
社会資源情報収集			
調整力			
各地から			
説明する力			
必要に応じて適切な介入			
モニタリング			
適切なモニタリング期間の設定			
サービス提供状況の確認			
サービス提供状況の聞き取り			
終結			
終結の判断基準、根拠			
終結判断の方法			

地域デザインにおける相談支援のスキル				
	有効なネットワーク構築	チーム形成		
		個別支援会議活用		
	地域ニーズの適切な把握	地域ニーズの掘り起こし		
		地域ニーズのコーディネート		
	地域診断	地域診断のための情報収集		
		地域情報の発信		
	社会資源の開発／改善	個別の支援から地域課題提起		
		地域解決策検討		
		課題解決策提案		
	地域の人材育成および運営管理における相談支援スキル			
	地域での人材育成	スーパービジョン		
		ファシリテーション		
		研修立案・運営		
	地域協議会の運営	情報共有のための定例会議の運営		
		課題検討のための各種部会等の運営		
		合意形成・施策低減のための運営会議等の運営		

あなたが活動する地域での実地教育（相談支援専門員からの相談の対応、スーパービジョンや研修会等）を行う基幹相談支援センターの職員についてお聞きします。それぞれの項目について、あなたが該当すると考える箇所に○を1つ選択してください。該当しない項目には何も記入しないでください。

	1. 全く同意しない	2. かなり同意しない	3. あまり同意しない	4. どちらでもない	5. やや同意する	6. かなり同意する	7. とても強く同意する
この人物は、批判的な内容であっても、フィードバックを積極的に求める。							
この人物は、何かのやり方が分からないとき、そのことを認める。							
この人物は、自分よりも他人の方が多くの知識やスキルを持っているとき、そのことを認める。							
この人物は、他人の長所に注意が向く。							
この人物は、他人の長所を褒める。							
この人物は、他人の特異な貢献に対して感謝を示す。							
この人物は、他人から意欲的に学ぼうとする。							
この人物は、他人のアイデアに耳を傾ける。							
この人物は、他人の助言に耳を傾ける。							

あなたが活動する地域の他の相談支援専門員や行政機関の担当部署職員等をチームと考える場合、それぞれの項目であなたが該当すると考える箇所に○を1つ選択してください。該当しない項目には何も記入しないでください。

	1. 全くあてはまらない	2. ほとんどあてはまらない	3. あまりあてはまらない	4. どちらともいえない	5. ややあてはまる	6. かなりあてはまる	7. 非常にあてはまる
このチームミスをする時、しばしば白い目で見られる。							
このチームのメンバーは、問題や困難について問題提起することができる。							
このチームのメンバーは、時として、自分と異なるという理由で他者を拒絶することがある。							
このチームでは、リスクを取っても安全だ。							
このチームでは、他のメンバーに助けを求めることは困難だ。							
このチームでは、私の努力をわざと無駄にしようと振り舞うメンバーはいない。							
このチームのメンバーと一緒に仕事をする時、私ならではのスキルや才能が価値を認められ、生かされている。							

実地教育（相談支援専門員からの相談対応、スーパービジョン、研修会等）を受ける上での期待について、お書きください。

--

ご回答ありがとうございます。調査は以上です。

本調査は2回実施し、前後のデータを比較いたしますので、下記についてもご記入ください。

なお、本結果を公表する場合、また統計処理する際、回答者の方が特定されることはありません。

ご回答者氏名		ご所属先	
メールアドレス		ご回答日時	

令和2年度厚生労働科学研究費補助金「相談支援専門員に対する実地教育の実施方法及び
実地教育に従事する指導者養成カリキュラム開発についての調査研究」
相談支援専門員に対する実地教育のコンピテンシーの検証に関する調査 調査票2回目

【ご記入にあたって】

- ・ 本研究の目的は、相談支援専門員に対する実地教育の専門的力を明らかにし、またその結果を検証することです。本研究での実地教育とは実践知を養い熟達化するための実務・実践場面での取り組みであり、具体的には業務実施地域で行われるスーパービジョンや業務内で行われる研修も含まれます。
- ・ **本調査は2月に実施したアンケート調査にご回答いただいた方に送付しています。**
- ・ **2月から3月の2か月間で実地教育を受けた場合、どのような変化があったのかを把握することを目的としているため、2月のアンケート調査の内容と同じ項目が多数あります。**
- ・ 上記のことをご理解の上、**現時点の回答者自身の状況**をお教えてください。
- ・ **3月31日（水）**までにご回答ください。ご回答にあたっては送付されたメールアドレスにご返信ください。
- ・ 回答にあたっては、調査票1のタグをまずは開いてください。回答内容によって、調査票2に進む方と調査票5に進む方に分かれます。

- ・ 以降の結果の公表は個人が特定されない点や同意についての項目は前回の調査と変更ありません。ご確認ください。
- ・ 研究への参加は自由です。参加しない場合でも不利益を受けることはありません。
- ・ 希望によっては、研究実施計画等を閲覧することができます。ご希望の方は下記の問い合わせ先にご連絡ください。
- ・ 本研究で知り得た個人情報については、取り扱いには十分配慮いたします。
- ・ 本研究で知りえた情報等は、本研究のために使用されます。データはパスワード付きの外付けハードディスクに**2026年3月31日**まで保管し、保管期間を過ぎた場合はデータ消去ソフトを使用して、破棄します。
- ・ 福井県立大学人権擁護・倫理委員会で審査した上で、本研究の結果を厚生労働省等他機関に提出することがあります。
- ・ 本研究結果を学会や学術雑誌に公表を予定しています。いただいた回答内容は、統計的な処理を行った上で公表します。統計処理に当たって、回答者の氏名、機関名、地域名といった個人が特定されることはありません。自由記述欄に固有名詞があり、それを掲載する場合は匿名化します。
- ・ 本調査票のご回答をもって、本研究への参加に同意いただいたと判断いたします。
- ・ 何かご不明な点がありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

〈調査実施者〉

和泉短期大学 鈴木敏彦 / 福井県立大学 相馬大祐

〈本調査の問い合わせ先〉

福井県立大学 相馬大祐 〒910-1195 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1

FAX : 0776-61-6016 E-mail : soma@fpu.ac.jp

1. あなたが活動する地域の基幹相談支援センターより、**2021年2月から3月の間に**受けた人材育成の取り組みについてお教えてください。
該当する項目に○を該当しない項目には何も記入しないでください。

回答欄	人材育成の取り組み内容
	基幹相談支援センターへの相談（電話等）
	基幹相談支援センター職員に同行してもらう
	貴相談支援事業所へ基幹相談支援センターが訪問する
	スーパービジョン（グループスーパービジョン含む）への参加
	事例検討会への参加
	基幹相談支援センター主催の研修会への参加
	その他（ ）

上記の項目に1つでも○が付いた方は調査票2のタグを選び、順次ご回答ください。

上記の項目に1つも○が付かなかった方は調査票5のタグを選択して、ご回答ください。

2. 以下の項目について、現時点+A1:F50のあなたに該当する箇所○を選択してください。該当しない場合は何も選択しないでください。

【記入例】人権意識等について、理解できている、他者に説明できている場合。

	理解できている	他者に説明できる	実践できる
相談支援に必要な価値			
人権意識・当事者尊重・意思決定支援について	○	○	

	理解できている	他者に説明できる	実践できる
相談支援に必要な価値			
人権意識・当事者尊重・意思決定支援について			
相談支援に必要な知識・技術			
障害福祉に関する制度について			
権利擁護・虐待防止に関する制度について			
障害特性（身体・知的・精神・発達・難病）について			
障害児支援について			
医療的ケアを必要とする児者について			
地域移行者について			
高齢障害者支援について			

個別ケースに対する相談支援のスキル					
	記録の技術について				
	安心感の提供について				
		受容			
		傾聴			
		面接設定			
	インタビュー・アセスメント				
		情報収集力			
		ケースを通じての情報整理力			
		見立ての力			
		要約力			
		説明力			
		客観性の担保			
		2次アセスメントの活用			
	サービス担当者会議を適切に開催・運営				
		会議招集			
		情報共有力			
		スムーズな会議進行			
	サービス等利用計画				
		社会資源情報収集			
		調整力			
	各地から				
	説明する力				
必要に応じて適切な介入					
モニタリング					
	適切なモニタリング期間の設定				
	サービス提供状況の確認				
	サービス提供状況の聞き取り				
終結					
	終結の判断基準、根拠				
	終結判断の方法				
地域デザインにおける相談支援のスキル					
	有効なネットワーク構築				
		チーム形成			
		個別支援会議活用			
	地域ニーズの適切な把握				
		地域ニーズの掘り起こし			
		地域ニーズのコーディネート			
	地域診断				
		地域診断のための情報収集			
		地域情報の発信			
	社会資源の開発／改善				
		個別の支援から地域課題提起			
		地域解決策検討			
		課題解決策提案			
	地域の人材育成および運営管理における相談支援スキル				
		地域での人材育成			
		スーパービジョン			
		ファシリテーション			
		研修立案・運営			
地域協議会の運営					
		情報共有のための定例会議の運営			
	課題検討のための各種部会等の運営				
	合意形成・施策低減のための運営会議等の運営				

3. あなたが活動する地域での実地教育（相談支援専門員からの相談の対応、スーパービジョンや研修会等）を行う基幹相談支援センターの職員についてお聞きします。
それぞれの項目について、あなたが該当すると考える箇所に○を1つ選択してください。該当しない項目には何も記入しないでください。

	1. 全く同意しない	2. かなり同意しない	3. あまり同意しない	4. どちらでもない	5. やや同意する	6. かなり同意する	7. とても強く同意する
この人物は、批判的な内容であっても、フィードバックを積極的に求める。							
この人物は、何かのやり方が分からないとき、そのことを認める。							
この人物は、自分よりも他人の方が多くの知識やスキルを持っているとき、そのことを認める。							
この人物は、他人の長所に注意が向く。							
この人物は、他人の長所を褒める。							
この人物は、他人の特異な貢献に対して感謝を示す。							
この人物は、他人から意欲的に学ぼうとする。							
この人物は、他人のアイデアに耳を傾ける。							
この人物は、他人の助言に耳を傾ける。							

4. あなたが活動する地域の他の相談支援専門員や行政機関の担当部署職員等をチームと考える場合、それぞれの項目であなたが該当すると考える箇所に○を1つ選択してください。
該当しない項目には何も記入しないでください。

	1. 全くあてはまらない	2. ほとんどあてはまらない	3. あまりあてはまらない	4. どちらともいえない	5. ややあてはまる	6. かなりあてはまる	7. 非常にあてはまる
このチームミスをする時、しばしば白い目で見られる。							
このチームのメンバーは、問題や困難について問題提起することができる。							
このチームのメンバーは、時として、自分と異なるという理由で他者を拒絶することがある。							
このチームでは、リスクを取っても安全だ。							
このチームでは、他のメンバーに助けを求めることは困難だ。							
このチームでは、私の努力をわざと無駄にしようと振り舞うメンバーはいない。							
このチームのメンバーと一緒に仕事をする時、私ならではのスキルや才能が価値を認められ、生かされている。							

5. 相談支援専門員からの相談対応、スーパービジョン等を受けた後に感じる効果について、何かありましたらお書きください。
本項目については、2021年2月～3月という期間ではなく、今まで受けた取り組みを含めてご回答ください。

ご回答ありがとうございます。調査は以上です。

本調査は2回実施し、前後のデータを比較いたしますので、下記についてもご記入ください。

なお、本結果を公表する場合、また統計処理する際、回答者の方が特定されることはありません。

ご回答者氏名		ご所属先	
メールアドレス		ご回答日時	